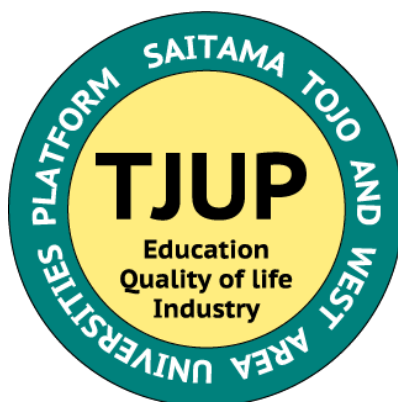


埼玉東上地域大学教育プラットフォーム
Saitama Tojo and West Area Universities Platform (TJUP)

中長期計画（2019～2023）
2020 年度改訂版



2022 年 10 月 1 日 Rev.6

目次

1. はじめに
2. 埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)について
3. 地域課題分析のまとめ
4. 地域における TJUP 高等教育のビジョン
5. 目標設定およびロードマップ

1. はじめに

地域概観

「埼玉東上地域大学教育プラットフォーム」は、埼玉県の東武東上線沿線および西武線沿線の大学・短期大学(以下「大学」)、自治体、企業が連携するプラットフォームです。下図の緑色の自治体を特定地域として指定しています。この地域は、埼玉県の多くの私立大学がある地域ですが、「3. 地域課題分析のまとめ」で示しますが、この地域は 20 歳前後の流出が多く、今後人口減少と高齢化が進む地域と考えられています。

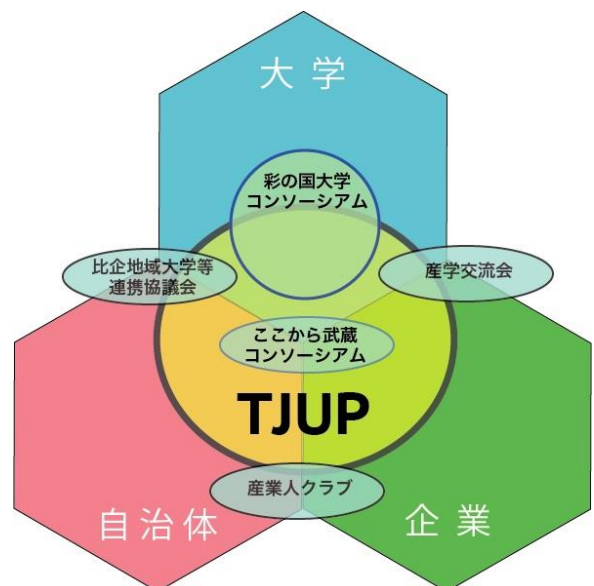
地域活性化のためには、自治体、企業そして大学が一体となって進む必要があるでしょう。私達は「地元で生まれ、地元で育ち、地元で生きていく若い世代の支援」というビジョンのもとに「多様な高等教育」「生活しやすい地域づくり」「地域産業の活性化」を掲げ、自治体と地元企業とともに地域活性化を目指したプラットフォームを設立しました。



既存の取り組みとの継続性

いままでも、大学・自治体・企業との連携はありました。それぞれの個別での取り組みやコンソーシアムを組織しているものもあります。むしろ、どの自治体も大学も相当数の協定を有しています。しかし、それらは個別の事案に対応したものが多く、少子高齢化のような大きな課題に基づいた将来的な課題への対応というものではない場合が多いと考えられます。

例えば、「彩の国大学コンソーシアム」は、単位互換制度、公開講座、共通 SD をテーマに大学－大学間連携の組織として設立されましたが、直接的な自治体の問題解決や企業連携は範疇でないところがありました。大学－企業間連携は、大学ごとに「産官学」連携の部署



をもち、協定を取り交わしたりして活発に行っています。近年、社会連携というキーワードにおいて大学—自治体連携も活発になってきており、専門の部署をもつ大学も少なくないのですが、大学の所在地に近接した自治体と連携した取り組みに発展させることは難しい一面もあります。

企業—自治体の組織としては、商工会議所、産業人クラブ等の組織があり、地域産業の振興に取り組んでいます。大学もこの組織に加わることも多いのですが、主体的に関与することは少ないように思います。

近年、地方の少子高齢化が問題になってくると、自治体の課題解決に地方の企業体も関わるようになってきました。そうした中で、「宇宙・産学官・地域連携コンソーシアム(通称:ここから武蔵コンソーシアム)」が、(一財)リモート・センシング技術センターが中心となり、鳩山町および大学とともに平成25年に設立されました。参加市町村、企業を増やしつつ地域性のある問題解決に取り組んでいます。ここでは、将来的な産業である宇宙産業を視野に入れた町興しが想定されていますが、最近では、文化的な活動も盛んに行っています。

「埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)」は、彩の国大学コンソーシアムのメンバー校が中心となっていますので単位互換制度などの既存の協定を引き継ぐことができます。また、ここから武蔵コンソーシアムのような自治体の課題解決に根ざした取り組みと一緒に取り組んでいくことができます。このように、TJUP は、これまでの各々の取り組みに敬意を払いつつ継承し、紐づけていくように活動していこうというのが特徴です。



埼玉東上地域大学教育プラットフォーム

TJUP

地元の大学に行って 地元で活躍しよう

 十文字学園女子大学 JUMONJI UNIVERSITY	 城西大学	 城西短期大学
 IG 女子栄養大学	 駿河台大学 SORYUGAI UNIVERSITY	 西武文理大学
 大泉大学	 東京電機大学 KEIO UNIVERSITY	 TDU 東京電機大学
 東邦音楽大学	 日本医療科学大学	 日本工科大学
 立正学院大学	 明海大学 MEIJI UNIVERSITY	 武蔵短期大学
 山科学園短期大学	 立正大学 RITSUMEIKAN UNIVERSITY	 埼玉県立大学 SAITAMA UNIVERSITY

東武東上線、西武線沿線の大学プラットフォームは、地域、企業と協力して「多様な高等教育」「生活しやすい地域づくり」「地域産業の活性化」を進めています。地元の大学に行って、地元で働いて、地元で生活するあなたを応援しています。

<https://www.tjup.taibokudo.jp/>



代表校：東京電機大学理工学部 〒350-0394 埼玉県比企郡鳩山町石坂 049-296-0042

2. 埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)について

2.1 参加大学

プラットフォームには、東武東上線、西武線沿線を中心とした大学・短期大学19校、オブザーバーとして埼玉県立大学の計20大学・短期大学が会員校となっています。会員校の一覧及び後述の取組における委員会(教育連携委員会、地域交流委員会、学生イベント交流委員会、キャリア支援委員会)の担当を以下の表2.1に示します。

表 2.1 TJUP 委員会構成

学校名	所在地	2020 年度	2021 年度	2022 年度
跡見学園女子大学	埼玉県新座市中野 1-9-6		教育連携	教育連携
埼玉女子短期大学	埼玉県日高市女影 1616		キャリア支援	キャリア支援
十文字学園女子大学	埼玉県新座市菅沢 2-1-28	地域交流	地域交流	地域交流
城西大学	埼玉県坂戸市けやき台 1-1	教育連携	教育連携	教育連携
城西短期大学	埼玉県坂戸市けやき台 1-1	キャリア支援	キャリア支援	キャリア支援
女子栄養大学	埼玉県坂戸市千代田 3-9-21	キャリア支援	キャリア支援	キャリア支援
駿河台大学	埼玉県飯能市阿須 698	キャリア支援	キャリア支援	キャリア支援
西武文理大学	埼玉県狭山市柏原新田 311-1	地域交流	地域交流	地域交流
大東文化大学	埼玉県東松山市岩殿 560	地域交流	地域交流	地域交流
東京家政大学	埼玉県狭山市稲荷山 2-15-1	学生イベント	学生イベント	学生イベント
東京電機大学	埼玉県比企郡鳩山町石坂	教育連携 学生イベント	教育連携 キャリア支援	教育連携 キャリア支援
東邦音楽大学	埼玉県川越市今泉 84	教育連携 地域交流	学生イベント	学生イベント
日本医療科学大学	埼玉県入間郡毛呂山町下川原 1276	学生イベント	教育連携	学生イベント
日本工業大学	埼玉県南埼玉郡宮代町学園台 4 丁目 1	教育連携	教育連携	教育連携
文京学院大学	埼玉県ふじみ野市亀久保 1196	地域交流	地域交流	地域交流
武蔵丘短期大学	埼玉県比企郡吉見町南吉見 111-1	学生イベント	学生イベント	学生イベント
明海大学	埼玉県坂戸市けやき台 1-1	教育連携	教育連携	教育連携
山村学園短期大学	埼玉県比企郡鳩山町石坂 604	学生イベント	学生イベント	学生イベント
立正大学	埼玉県熊谷市万吉 1700	キャリア支援	キャリア支援	キャリア支援
埼玉県立大学 (オブザーバー)	埼玉県越谷市三野宮 820	教育連携	教育連携	教育連携

2.2 地域について

地域は、参加大学がある周辺の市町村を対象とすべきです。さらに、学生を全国規模で募集していることから、大学－自治体連携は、他県の自治体とも生じています。実際に、参加大学のほとんどは、あまり地域を意識せずに事案別または包括的に複数の自治体と協定を結んでいます。協定先が県外の場合も多いようです。しかし、いずれの場合も多くの場合で解決しなければならない課題は類似しています。そして、それらの協定内容の多くはプラットフォームに引き継がれて、より良い展開を期待すべきものと考えられます。

プラットフォームは今後の発展的活動を想定し、地域の活性化を目指して以下、表 2.2 に示す自治体を特定地域として指定しています。このうち 23 の自治体と包括協定を締結しています。さらなる自治体との協定締結も視野に、現在の協定自治体との連携をより一層強化していきます。

表 2.2 特定地域 (50 音順)

2022.10 現在

特定地域	2020.9 より 追加した特定地域
★入間市	★小川町
★越生町	★川越市
★熊谷市	★川島町
★坂戸市	★ときがわ町
★狭山市	★所沢市
★鶴ヶ島市	★新座市
★滑川町	★ふじみ野市
★鳩山町	宮代町
★飯能市	★寄居町
★東松山市	★嵐山町
★日高市	2022.3 より 追加した特定地域
★毛呂山町	
★吉見町	★和光市

★:自治体会員

2.3 産業界について

企業との新商品の共同開発・共同研究を推進していく他に、農林業・食料産業を含めた新たな産業の開拓、特に society5.0 に関連し他地域との連携の中で参加校の卒業生が地域で活躍できる新しい産業イノベーションに取り組んでいきます。また、地域企業への就職斡旋や地域キャリア教育を大学連携の中に取り組み、地域で活躍する若い世代を支援することで、地域産業の活性化を推進し、地域雇用の拡大と地元定着率の向上を図ります。2022年10月現在、様々な業界の13団体と包括協定を結んでいます。今後も地域の企業等とプラットフォームは、より一層の連携を強化していきます。

〈事業者会員〉2022.10 現在

株式会社アーベルソフト

イオンタウン株式会社

伊田テクノス株式会社

株式会社エフケイ

埼玉産業人クラブ・TDU 産学交流会

埼玉福興株式会社

株式会社セキ薬品

パーソルテンプスタッフ株式会社 関東営業本部 埼玉営業部

飯能信用金庫

株式会社ベルク

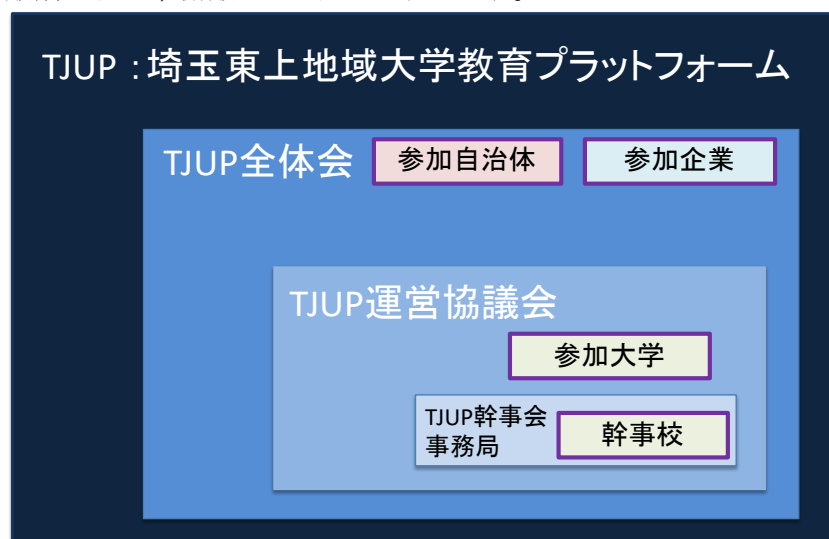
株式会社村松フルーツ製作所

一般財団法人 リモート・センシング技術センター

株式会社 JTB 川越支店

2.4 TJUP 組織について

- (1) まず、参加大学による TJUP 運営協議会を組織します。TJUP 運営協議会は、TJUP の管理・運営を行います。
- (2) TJUP 運営協議会において代表校、幹事校、事務局、会計校、監事を決めます。
- (3) 代表校、幹事校、事務局、会計校で、TJUP 幹事会を組織します。ここで運営に関する案を審議します。
- (4) 参加自治体、企業および TJUP 運営協議会で TJUP 全体会を組織します。TJUP 全体会は、TJUP 運営協議会での議論をもとに、協議および実施を行います。



委員会活動, FD・SD 活動, 大学運営に関する研究会, 公開講座などの取り組みは, 大学, 自治体, 企業の枠を意識せずに参加できるように工夫します。

幹事校等 (2020 年度)

- ・ 代表校 東京電機大学 (事務局)
- ・ 副代表校 城西大学 (事務局, 教育連携委員会委員長校)
- ・ 幹事校 大東文化大学 (事務局長校, 地域交流委員会委員長校)
- ・ 幹事校 女子栄養大学 (事務局, 会計担当, キャリア支援委員会委員長校)
- ・ 幹事校 武蔵丘短期大学 (事務局, 学生イベント支援委員会委員長校)
- ・ 監 事 坂戸市
- ・ 監 事 駿河台大学

幹事校等 (2021 年度・2022 年度)

- ・ 代表校 城西大学 (事務局)
- ・ 副代表校 大東文化大学 (事務局)
- ・ 幹事校 日本医療科学大学 (事務局長校)
- ・ 幹事校 東邦音楽大学 (事務局, 会計担当)
- ・ 幹事校 東京電機大学 (事務局)
- ・ 監 事 鶴ヶ島市
- ・ 監 事 女子栄養大学

3. 地域課題分析のまとめ

地域課題を分析するために以下の調査を行いました。

- ・ 埼玉東上地域大学教育プラットフォーム 地域の人口変動分析
- ・ 埼玉東上地域大学教育プラットフォーム 地域の自治体・企業アンケート調査
- ・ 埼玉東上地域大学教育プラットフォーム 共同 IR 調査
- ・ 埼玉東上地域大学教育プラットフォーム 高等学校調査
- ・ 埼玉東上地域大学教育プラットフォーム 学術分野マップ分析

調査報告書は、別途ホームページ等で公開しています。ダウンロードしてお読みください。

(<https://www.tjup.taibokudo.jp/index.php/analysis/>)

課題の要点は、以下のようにまとめることができます。

- (1) 人口減少，少子化問題が重要である。【人口変動分析】【自治体・企業アンケート調査】
- (2) 特に，20 歳代の転出が顕著である。【人口変動分析】【共同 IR 調査】
- (3) 大学教育の新しい教育および質向上が課題である。【共同 IR 調査】【高等学校調査】
- (4) 連携教育(研究も含む)の重要性がある。【共同 IR 調査】【学術分野マップ分析】
- (5) 初等・中等教育と高等教育の連携が望まれている。【自治体・企業アンケート調査】
- (6) 自治体における健康促進に高等教育が連携することが望まれている。【自治体・企業アンケート調査】
- (7) 産業振興，企業誘致が望まれている。【自治体・企業アンケート調査】

地域の教育を魅力的なものとし，20 歳代の転出を抑え，逆に転入を増やせると望ましいです。また，大学を出た学生が地域を中心として就職するか，通える範囲に就職して留まってくれる必要があります。そのためには，地域の産業が発展し雇用が増進するとともに，住みやすい(家庭を持ちやすい)環境でなければなりません。

以上から，取り組むべき内容(目標)として下記の 3 点が見えてきます。これをもとにプラットフォームのビジョンを構築します。

- ・ 自治体，企業等との連携を含めた教育プログラムの開発
- ・ 生活しやすい地域づくりの推進
- ・ 地域産業の活性化

4. 地域における TJUP 高等教育のビジョン

「地元で生まれ 地元で育ち 地元で生きていく若い世代の支援」

東武東上線沿線、西武線沿線は、これから急速に人口減少が予想される地域であり、自治体にとっても関心が強い事項です。その中で、20 歳代の転出が多いことがわかりました。

地域にある大学としては、20 歳代の若者が地元に残り、地域の発展に関係していけるようにすることが大切だと考えました。まずは、地域の大学が魅力的になるように大学同士が連携して魅力的で新しい教育システムを提案し、実現することが重要だと考えます。できれば、他の地域からの若者の転入が起きるくらいになれば素晴らしいことでしょう。

次に地元の大学を卒業した若者が、引き続き地元で豊かに生活していける環境が整っていなければなりません。卒業後に地元に残ってもらうことが大切です。雇用促進、産業の振興による活性化は生活基盤の安定化に欠かせないものでしょう。大学は、共同研究や産官学連携を通して産業の活性化に取り組む必要があります。

地元に残って生活をする若者にとって魅力的な街である必要があります。施設、交通、機関等が十分なだけでなく、コミュニティ的にも文化的にも教育的にも魅力的であることが必要です。特に初等・中等教育を通じた教育の魅力は、子育て期の親にとっては重要な条件になります。自治体も初等・中等教育と大学教育のリンクに大きな期待を寄せています。

TJUP は、地元で生まれた子供が、初等・中等教育と大学教育の連携による魅力的な教育の中で育ち、大学で専門的な知識を得て就職し、豊かで住みやすい地元で結婚し子育てをする若者を応援します。さらにその若者たちの子供がこの地元で育ち活躍していくことをビジョンとして望んでいます。

ビジョンの具現化のために、2018 年度の設立当初より WG 体制で活動してきたが、2020 年度より、以下の趣旨により、委員会体制に変更しました。

委員会体制変更の趣旨

TJUP の今後の運営及び事業等を迅速に、円滑かつ着実に遂行するため、現行の組織及び運営体制について所要の見直しを行う。特に TJUP が取り組む事業や活動を可視化することにより、TJUP に加盟する大学・短期大学の学内において TJUP の浸透を図ること、TJUP の重要なステークホルダーである各加盟校の学生のための事業等をいっそう推進することを主たる目的として、今般、事業等の企画・運営体制をワーキンググループ (WG) 組織から委員会組織へ変更する。

2020 年度から、4 つの委員会を軸に活動を推進しています。

【教育連携委員会】

TJUP に加盟する大学、短期大学等が中心となって、地域の自治体、学校、団体等を巻き込みながら教育関連事業等を展開する。

- ①大学間連携による講座(共同科目など)の開設に向けた検討及びその実現
- ②大学間連携による単位互換制度を運用する新体制への引き継ぎ
- ③高大連携の実現に向けた検討及びその実施
- ④教育連携懇談会の定期的な開催
- ⑤小学校、中学校、高等学校等に対する教育支援の企画及び実施
- ⑥社会人対象の教育プログラム及び公開講座等の企画及び実施
- ⑦合同進学相談会の企画及び実施 他

【地域交流委員会】

地域社会との交流を通じて学生の成長を促すとともに、産学公民連携の活動を通して、地域社会が抱える課題を解決する。

- ①地域の社会、経済、産業、雇用、文化・芸術等の振興に資する事業等の企画及び実施
- ②地域医療の推進、健康・福祉の増進、高齢者支援・子育て支援等に関する事業の企画及び実施
- ③地域の防災活動、環境保全活動等の事業への協力
- ④地域の祭事など、イベントへの参加、協力及び支援
- ⑤地域課題の解決に資する調査・研究等の企画及び実施並びに公開シンポジウム等の開催 他

【学生イベント交流委員会】

学生交流や地域と学生との交流を通じて、学生の自立性や社会性、コミュニケーション力を培う。

- ①大学・短期大学間の学生交流等の促進に寄与する事業等の企画及び実施
- ②学生団体・サークル等の連携及び交流
- ③大学祭の相互訪問や共同開催の企画及び実施
- ④学生による教育研究成果の発表大会の企画及び実施
- ⑤学生リーダー会議等の企画及び実施 他

【キャリア支援委員会】

学生対象のキャリア支援を通して、地域雇用の拡大と地元定着率の向上を図る。

- ①産学公連携による合同就職説明会、就職懇談会等の企画及び開催
- ②産学公連携によるインターンシップの企画及び実施
- ③学生を対象とした合同海外研修の企画及び実施
- ④学生のキャリア支援に資する事業の企画及び実施 他

5. 目標設定およびロードマップ

取り組むべき内容に従って、目標設定と達成に向けてのロードマップを作成します。

5.1 プラットフォームの形成・発展

プラットフォームの形成は、2018年9月末までを一つの区切りとして行いました。事業団へ採択されたことを機に自治体との協定も進み、23自治体との協定締結に至りました。

2019年度以降、彩の国大学コンソーシアム加盟大学を中心に、TJUP参加大学を増やす働きかけを進め、会員校はオブザーバー校を含め20校となりました。

2022年度以降は、会員校・自治体会員・事業者等会員とのより一層の連携強化を重視し、TJUPのさらなる発展に向けた活動を実施していきます。参加大学の増加に従って特定地域の拡大も生じ、TJUP内の連携を強くして、事務処理の簡便化のもと、引き続き地域の課題解決に取り組んでいける体制を整えることも大切です。

【目標】

- プラットフォームの拡充、体制を整備・強化する。
- プラットフォームの認知度を向上させる。

【取組概要】

- ・会員校・地域の課題検討
- ・事業内容の検討
- ・TJUP法人化へ向けた検討
- ・中長期計画のPDCA
- ・自治体等との連携協定の拡充
- ・企業等との連携協定の拡充
- ・自治体・企業等との連携体制整備・強化
- ・自治体・企業等と連携したプラットフォームの認知度の向上

5.2 基盤となる取組(共同事業)

WG活動の基盤となる活動があります。従来からの共同事業や、最近の教育改革に関係した事項です。これらは、従来の活動を追認することで定常的な活動として継続し、改善のために数値目標を設定して推進していきます。

【目標】

- プラットフォームの重要なステークホルダーである会員校の学生・教職員のための事業を共同で推進する。自治体との協議体制確立

【取組概要】

- ・教育連携に関する市民フォーラムの開催
- ・プラットフォーム大学入試説明会

- ・公開講座
- ・単位互換制度
- ・地域リスクマネジメント懇談会
- ・共同研究・知財活用
- ・教育・研究施設共同利用
- ・学生の相互交流活動(イベント・交流会等)の実施
- ・人事交流制度

5.3 多様な高度教育の提供(自治体, 企業等との連携を含めた教育プログラムの開発)

【目標】

■自治体, 企業等との連携を含めた教育プログラムを開発する。

【取組概要】

- ・教育改善・eラーニング促進 IPE・IPW プログラムの展開
- ・履修証明型市民・町民大学の提供__履修証明プログラムの設置
- ・履修証明型市民・町民大学の提供__自治体連携の詳細協議・検討

5.4 地域連携の推進

【目的】

- 生活しやすい地域づくりを推進する。
- 地域産業の活性化を推進する。

【取組概要】

- ・地域イベントへの教職員・学生派遣
- ・健康増進事業の実施
- ・地域企業との連携による企業セミナーの実施
- ・地域企業との連携によるインターシップの実施

5.5 埼玉東上地域教育プラットフォーム ロードマップ

埼玉東上地域教育プラットフォームのロードマップを参考資料に示します。